

り、149回には大関に昇進。しかし、大関として満足いく成績が残せず5場所で陥落。それ以降は持病の糖尿病が悪化して自分の相撲が取れずに今場所限りで引退を表明するに至った。

幕内通算75勝88敗2休、通算成績109勝97敗2休、幕内優勝1回、十両優勝1回、幕下優勝1回、序の口優勝1回、殊勲賞2回、敢闘賞1回、技能賞2回。

低い姿勢からの怒濤の寄り得意とし、上手投げを見せることもあり、同門の桐壺部屋の横綱美空富士、春ノ翔を苦しめ、桐壺親方にとっては頭の痛い存在だった。引退後は先場所定年退職した一門の竹松(竹生島)を継ぎ、後進の指導を行う予定。(黒雲)

### 桃乃洲逆転 若雲まさかの4連敗

九日目を終えて、1敗の若雲山と2敗で壺国、そして3敗の桃乃洲と超刃の4人に優勝争いが絞られた。

十日目は桃乃洲と壺国の直接対決があり、先に土俵上がった若雲山は椿富士との対戦。徐々には優勝を意識し硬くなられたが椿富士に粘られて惜しくも浴びせ倒され2敗に後退。

続いて超刃は西勢ノ里に屈して4敗となつて脱落。その後桃乃洲が壺国に左を差され苦しい体勢から上手投げを決めてこちらは3敗を死守。

壺国が敗れたため若雲山が勝つていけば十日目の優勝が決まる。ただ、これで千秋楽の土俵に決着は持ち越されることに。



壺国●(上手投げ)○桃乃洲 椿富士○(浴せ倒し)●若雲山

若雲山が勝てばすんなり優勝となる千秋楽の相手は磯自慢。ここで何としても決めておきたい若雲山は、立ち上がるや先に磯自慢にのど輪をこじ入れられた。そのまゝズルズルと押し出され九日目からの痛恨の3連敗。そして壺国が超刃に負けて4敗目、桃乃洲が寄りの優勢で勝つたため優勝争いは桃乃洲と若雲山の優勝決定戦で争われることとなった。

十両の全取組終了後、両者による決定戦が行われた。先場所東筆頭で幕内昇進を逃した若雲山にとっては雪辱戦。注目された一番は、立ち合いかから両者がまくり合わずに取っ付く事4度目で桃乃洲が寄り切った。また桃乃洲は30歳の遅咲きにして嬉しい昇進も決めた。



若雲山●(寄り切り)○桃乃洲 桃乃洲○(引き落し)●磯自慢

かたや、まさかの結果にガックリと肩を落とす鹿賀乃戸親方。「なんだよ、優勝も昇進も無しかよ」とダブル奪取を狙っていたが、どちらか叶わずじまい。「優勝よりも幕内に入りたかったよ」と言う鹿賀乃戸親方に「いずれ幕内には入るだろうから十両優勝の名誉の方がいいと思うけど」と錦風親方。

十日目を迎えた時点で優勝と昇進を親方同様にも信じて疑わなかっただけに、鹿賀乃戸親方にとっては青天の霹靂だったに違いない。追い打ちをかける如く東筆頭の黒雲海も負け越しに終わりまさに泣きつ面に蜂状態。しかし、後の幕内の相撲で鹿乃富士が無事勝ち越しを決めて、一件落着の鹿賀乃戸親方というのは後の話。

新十両では鶴ノ里と椿富士が勝ち越しを決め親方を安堵させた。一方、先場所優勝の御嶽灘、茅ヶ崎、昊翔龍、英風が幕下陥落になリそう。

(勝間田)

### 幕下は浪野 勝間田勢之場所連続

優勝をかけた4戦全勝の土の対戦は浪野が磯日ノ丸を下して見事に幕下を制した。磯日ノ丸が勝てば143回の幕内以来6年振り、初優勝となる一番は、初野が勝つてもちろん初優勝となる一番は、初野に左を差し合う攻防もに差を勝つた浪野が磯日ノ丸を寄り切りにした。



磯日丸●(寄り切り)○浪野

これで浪野は優勝とともに十両昇進も手中にした。東十一枚目からの昇進はかなり稀であるがこのチャンスを生かすことができるか来場所に期待したい。優勝を逃したものの磯日ノ丸も4度目の再十両復帰を決めた。

東筆頭の鹿麒麟は磯日の丸に敗れた一敗のみで4勝1敗の好成績を上げ一場所での十両復帰を果たした。今度は十両定着と行きたいとこだ。磯ノ海部屋では磯若と磯日の丸が昇進を決めたほか、磯蟹にも昇進の可能性があったが半枚差で惜しくも昇進はならず。

春日根部屋の西旭は徳ノ富士との昇進がかかった一番を押し倒して下し部屋としては7人目の関取を果たした。猿飛や音柱も後に控えており、今後も着実に勢力を拡大していくそう。

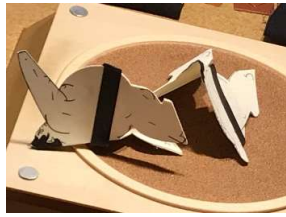
桐壺部屋は上位の播磨富士、徳ノ富士、虎麒麟に十両昇進の期待がかかったが共に負け越してとなり、徳ノ富士に至っては千秋楽に勝ってれば十両復帰となっただけに惜しい黒星となった。

初戸が1勝4敗と幕下でも精彩を欠く錦風勢で代って台頭してきたのが逆馬山、逆馬山、虹ヶ谷の3力士。逆馬山の十両昇進は来場所以降に持ち越されたが、逆馬山と虹ヶ谷は4勝を上げて来場所も活躍の期待大で、錦織親方も若ノ嶋の太刀持ちと露払いに願っていることだろう。元小結で鳴駒部屋唯一の力士の琴乃乃が1勝4敗と最後の取組も力なく敗れて引退となった。

(山里)

### 三段目ノ序の口

三段目は全勝で松山と自力岳が対戦。松山は錦風親方が太鼓判を押しながらもなかなか勝つ切が育成会でも低迷していた大松戸部屋に逸材。今場所ようやく全勝した。幕下への昇進を果たした。



松山●(押し倒し)○自力岳

秋田部屋は難波山と千曲海は今場所も勝ち果たした。待望の幕下昇進へあと一歩だ。

序二段でも大松戸部屋が快進撃。三段目の松山同様期待されながらも実力を発揮できなかった戸田が難敵強久根を倒し、150回場根を倒した。優勝を果たした。

序の口は全勝の紅の華と黒盾の対戦。序二段、三段目では優勝を逃した春日根勢だった。黒盾を圧倒し、一矢報

いた。また山桜親方最後の愛弟子、春日根親方から十勝のおっさん「と親した勝つこと櫻が負け越して惜しくもなつた。最高位幕下になった。幕下及び育成会通算51勝59敗

(鹿賀乃戸)



黒盾●(寄り切り)○紅の華 戸田○(寄り切り)●強久根



千曲海○(押し倒し)●桜庭 自力岳●(寄り切り)○松山